

フォレストボランティア等と
不法投棄防止合同パトロール・
清掃活動を実施

下北森林管理署



7月8日(金)、むつ市大畑町(奥薬研周辺)、むつ市川内町(せせらぎ公園周辺)と大間町(奥戸林道外)の3箇所において、不法投棄防止三斎パトロールを兼ねたクリーン活動をフォレストボランティア員など15名の一般市民の参加を得て行いました。

大畑町を担当したグループでは、当日はあいにく雨天のため、カッパを着用しての作業となりましたが、参加者は、森林パトロール員の帽子をかぶり、ゴミ袋、火バサミ片手に県道・広場・遊歩道等を巡回し、タバコの吸い殻、空き缶、空きビンなどを拾いゴミ収集に汗を流していました。

中には、ゴミ拾いに熱心なあまり予定のコースをオーバーされる方もいましたが、少しでも綺麗にしようとするその思いに参加者一同心を新たにしていました。

毎年、合同パトロールと清掃活動を実施していますが、このような活動を通して、一般の方にも森林環境美化への理解が深まっていくものと期待しています。



各地からの
便り



秋田駒ヶ岳の高山植物の
盗採に対する

合同取り締まりを実施

秋田森林管理署



6月13日(月)、当署が主催する秋田駒ヶ岳の高山植物の盗採に対する合同取り締まりを実施しました。秋

田駒ヶ岳山頂帯には、国の天然記念物に指定されている数百種類の高山植物が見られ、多くの人々を魅了しています。この高山植物の盗採を防止するため毎年、取り締まりを実施しています。

当日は、午前10時から午後2時まで秋田駒ヶ岳8合目へ通じる県道で、



荷物確認をしている様子

仙北警察署3名、仙北市教育委員会2名、ボランティア3名、当署8名の合計16名で行いました。取り締まり台数は、上り車両36台、下り31台でした。幸いにして盗採者は一人もいませんでしたが、今後も引き続き、天然記念物「秋田駒ヶ岳の高山植物」を守っていくため保護・監守に努めていきます。

「庄内海岸クロマツ林探訪」の
開催について

庄内森林管理署

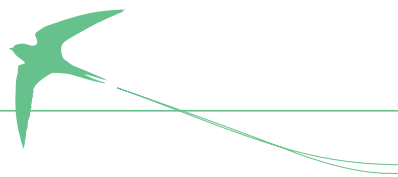


7月3日(日)、管内国有林の鶴岡市「湯野浜」および酒田市「万里の松原」において、当署が行っている海岸防災林造成事業やクロマツ林と密接な関係にある砂草地の重要性について認識してもらうことを目的に「庄内海岸クロマツ林探訪」を開催しました。

当日は明け方から雨が降り、開催が危ぶまれましたが、開催直前には雨も上がり雨具を使用することなく全行程を行うことができました。

「湯野浜」では、これまで治山工事において施工した砂丘造成工事の概要と砂草地の役割について現地説明を行い、参加者からは「植栽されている砂草は何か」、「工事を施工した

今年の夏は節電の夏。森林とのふれあいの中で、ひとときの涼をとるなど、この夏ならではの催しが多数開催されました。季節によって表情をかえる、森林の魅力をご紹介します。



万里の松原の説明をしている様子

また、万里の松原では、地域のボランティア団体等と連携しながら維持管理している松林の中を気持ち良く散策しながら、「万里の松原」を設定した経緯や目的などを説明しました。開催後のアンケート結果では「砂草地が手入れされていることを初めて知った」、「クロマツ林の成り立ちに



砂草地の説明をしている様子

際の留意点は？」などさまざまな質問が出ました。

このコースの見所は「可憐なコマクサを求めて」のとおり、何といてもコマクサにあります。コマクサ平周辺では、コマクサの花が最盛期を迎えていて、清楚で可憐なその姿に参加者一同が魅せられていました。

参加者の皆さん健脚ぞろいで、和気あいあいと楽しくコースを巡ることができました。

当日のコースは、ロープウェイで蔵王山麓駅から蔵王地蔵尊まで一気に登り、ワサ小屋跡→熊野岳（1841m）→ワサ小屋跡→いろは沼→ユートピアリフト乗り場まで歩き、蔵王山麓駅までロープウェイで下ると約6時間の行程でしたが、

山形森林管理署
森林ふれあいガイド事業「可憐なコマクサを求めて」を実施して



ついでに知ることができ有意義であった」などの感想があり好評でした。今後こうした活動を通して、一般の方にも庄内海岸林への理解が深まっていけることを期待しています。

七夏の7月7日(木)、晴天に恵まれた絶好のトレッキング日和のなか、「可憐なコマクサを求めて」と題して、今年度3回目の森林ふれあいガイドを一般応募者25人の参加により行いました。

6月17日(金)、当局に隣接する秋田市立中通小学校との協働による「環境美化の集い」を実施しました。この集いは、学校緑化活動の環として花や土にふれてもらい、豊かな心を育むことを目的に、木製のプランターに花を植えて展示するもので、中通小学校4年生児童を対象に平成14年度から毎年実施しており、今年で10

中通小学校との
環境美化の集いを実施
指導普及課



山形森林管理署では、年間5回の森林ふれあいガイドを行っています。今後も、国有林の名所・見所を廻るトレッキングを企画し、多くの皆さんに森林浴を楽しんでいただきたいと思っています。



お釜を背に咲くコマクサ

最後に代表児童が、「花を大切にすることは優しい気持ち大切です。今日植えた花を大事に大事に育てます。」と挨拶し、イベントを終了しました。

当日はよい天気にも恵まれ、児童35名と教師3名、当局職員24名が参加し、職員から植え方の説明を受けた後、子供達はプランターに植栽を開始しました。先生や職員の手を借りながら丁寧に植え、スギの間伐材で出来た70個のプランターに、マリーゴールド、ペチュニア、日々草の花140本が咲きました。



当局職員と協働より植栽する生徒

年目となりました。



みどりの東北

このイベントは地域の方々も心待ちにしており、展示した色とりどりの花々は道行く人の目を楽しませています。

暑中の白神山地より

藤里森林センター



季節の移ろいは早いもので、白神山地では、つい先日までブナの新緑が輝いていましたが、今は真夏の強烈な日射しの下、深緑の森林に姿を変えています。

さて、当藤里森林センターにおいては、この間、二つのイベントを実施しましたので紹介します。

●白神森林講座

6月4日(土)にGネイチャーコミニケーション代表(日本山岳ガイド協会認定登山ガイド)の後藤千春氏を講師に迎え「春の白神山地をきれいに撮ろう」と題し、写真撮影を兼ねた自然観察会を開催しました。

はじめに、当センター研修棟において森林講座を開催し、野外撮影のポイント、より良い撮影アングルの取り方等についての講義を受け、いざ現地へ。

参加者18名の皆さんご自慢のカメラを携え、まずは太良峡での天然秋田スギや藤琴川の溪流を被写体にして、無心でシャッターを切ってい



太良峡にて

ました。

朝からの小雨が降りしきる中、残念ながら野外での昼食は取れず、バス内での昼食を済ませた後、岳岱自然観察教育林での撮影会に移りました。

午前中とは全く環境の違う、ブナ林内での撮影会に、参加者の皆さんは熱心に講師からのアドバイスを受け、疑問点について積極的に質問しながら、林床の植物やモリアオガエルなどの被写体にカメラを向けていました。

帰路は、峨嵋の滝に立ち寄り、ここでも迫力ある滝の姿や、躍動する水



和気あいあいの雰囲気の中で
左端が後藤千春講師

の流れを写真におさめていました。

今回初めて外部講師による講座を実施した訳ですが、参加者の皆さんからは、「写真をはじめたばかりなので、大変参考になった」「とても親切に案内していただき楽しかった」などのうれしい声をいただき、充実した一日となりました。

●藤里駒ヶ岳登山

7月2日(土)、快晴の下、参加者19名の皆さんとともに路頂上を目指し、午前10時に黒石沢林道終点駐車場より登山を開始しました。歩き始めて10分ほどでニコウキスゲが今まさに見頃の田苗代湿原に到着。湿原を埋めんばかりの黄色と緑色のコントラストに、参加者の皆さんからは「うわー、きれい」との歓声が聞かれました。

田苗代湿原を越えると、いよいよ



幻想的な景色の中で(表紙)

登山開始です。

登山開始から約20分、道の傾斜がきつくなり、息を整えるため適宜休息を取りながら一人ひとり無理せずゆっくりと足を運びました。途中、幽霊茸と呼ばれるギンリョウソウの不思議な佇まいを見たり、マイズルソウの群落に足を止めて眺め、頂上手前ではゴゼンタチバナの見事な大群落に感銘の声をあげながら予定時刻より30分も早い12時に全員登頂に成功しました。(標高1158m)



藤駒頂上の爽風の中で

頂上からは小岳やニツ森などの1km級の頂を眺めることができ、爽やかな風を受けながら食べるお弁当は格別な味でした。

昼食もそこそこに皆さんは、柔軟運動を開始、「早く歩きましょう」と意欲満々。しっかりと足腰を整え足取りも軽く下山を開始しました。



みどりの東北

登山時と同様に適宜休息を取りながら、無事出発点の黒石沢林道終点駐車場に到着。職員からの冷えた水のサービスに「おいしい」「生き返った」などの声をいただきました。参加後のお便りには「職員のみなさんの対応が素晴らしく、感動した」「安心して登山を楽しめた。ありがとう」など胸が熱くなるメッセージをいただき、今後も充実したイベントになるよう努めることを改めて認識した一日となりました。

今後のイベントを実施していくにあたり、参加者の皆さんを無事に案内することはもとより、更なる内容の充実を図ることを念頭に業務を進めてまいります。

自然観察会開催

津軽白神ふれあいセンター



津軽白神森林環境保全ふれあいセンターでは、開所した平成18年度から一般の方を対象に自然観察会を開催しています。平成23年度は年5回の自然観察会を計画しており、7月23日(土)には第3回の自然観察会を北八甲田で開催し秋田県からの参加者や県内各地から24名の参加がありました。

今回の自然観察会は、参加者の方々の体力に併せ、「毛無パラダイスライン」のコースと「八甲田ゴードライン」のコースに分かれ、それぞれが夏本番の八甲田連峰を楽しみました。登山道の廻りには樹水で有名な「アオモリトドマツ」や高山地帯に見られる「ハイマツ」の木々、綿のような白い球形の果穂が特徴な「ワタスゲ」やシロバナシャクナゲの別名もある白色の花冠を見せてくれる「ハクサンシャクナゲ」などが見られ参加者を歓迎しているようでした。「毛無パラダイスライン」を歩いた参加者からは「初めて歩いたが、結構大変で疲れました。でも、何よりも天気が良く景色が素晴らしかったし、爽やか風が心地よかったです。ひとりでは来ることが出来なかった

ので、参加して良かった」との感想がありました。当ふれあいセンターは今後も、自然に触れ、自然を楽しみ、



八甲田ロープウエー山頂にて

自然の素晴らしさを感じてもらえる様な自然観察会を開催していければと思っております。

朝日自然塾4 「釣りキチあつまれ！」

朝日庄内ふれあいセンター



朝日自然塾4「釣りキチあつまれ！」(朝日山地で森林とイワナを学ぼう)は7月9日(土)、山形市、寒河江市、天童市内等の小学生の親子を中心に28名の参加者で開催しました。

当日は、晴天には恵まれたものの、数日前の集中豪雨の影響等もあり、釣り場所は、予定していた溪流からイワナのいる池に変更しての実施となりました。

参加者の半数以上が初めての方であったため、初めの数十分は夢中で竿を振り込んでみるものの、なかなかイワナを釣り上げることが出来ません。次第に竿の扱いに慣れ、講師から教わった魚信(あたり)と合わせ方が出来るようになります。あちこちから歓声があがり、嬉しそうに釣ったイワナと一緒に記念撮影も出来ました。

釣りは初めてという親子には、講師が何とか釣らせてあげたいと手を添えた熱心な指導の甲斐もあって、ほとんどの参加者はイワナを釣り上

げることができました。

イワナ釣りに続いて、大井沢地区を流れる寒河江川を静かに眺めながら、講師から溪流釣りの話を聞き、溪流でのイワナの生活(衣食住)や森林とイワナの深い関係についても教えていただきました。

その後、大井沢セミナーハウスに移動して、昼食とともにスタッフがいねいに焼き上げた美味しいイワナの塩焼きに舌鼓を打ちました。

午後は、イワナの特徴・種類・おもしろい話や川でのルール・マナーなどについて座学を行いました。普段聞くことのできない講師の話は興味深いものであるとともに、私たちの身近にある川は朝日山地を源流とするものも多く、ブナなどの豊かな森林とつながっており、森林や川を保全するための活動の大切さを学んだ一日となりました。



イワナを釣ったよ!